

6年 国語科研究授業のまとめ（6月26日）

1 単元名及び単元の目標

新聞の投書を読み比べよう（3/8本時）

- ◎ 四つの投書を読み比べ、文章に表されている書き手の工夫について読み取り、自分の考えを書くことができるようにする。

2 本研究授業の提案について

説明文における筆者の工夫に気付かせるための手だてとして、以下の二つを提案した。

- (1) ワークシートを活用し、四つの投書を段落に分けて整理することで、それぞれの筆者の工夫を一目で気付くことができるようにした。児童は、段落ごとに内容を分けて書くこと（話題提示、意見、理由1・2、反論、まとめ）、意見を最初と最後の2回書いていること、理由を二

つ挙げていることなどの工夫に気付くことができた。また、その工夫が自分の意見をより強く伝えたい時に有効な手だてであることに気付くことができた。以上のことから、ワークシートを活用し、内容を視覚化して提示したことは有効であった。（資料1参照）

理由の挙げ方の四つの工夫（経験、伝聞、資料、引用）に気付かせる場面では、ワークシートの内容だけでは見つけることができず、本文に立ち返ることが必要となった。ワークシートを十分活用させるためにも、要約ではなく全文を整理して記入することが必要であったと考える。また、最後にそれぞれの工夫を漢字二文字で表すなど、新しい語句の指導を行うことで児童の語彙を増やすという配慮も必要であった。

- (2) 考えを発表し合い交流する場面としてペア学習を取り入れた。自分が思いつかなかった友達の考えは青でメモするなど、新しく気付いた考えと自分の考えを分けて整理させた。しかし、お互いの意見の発表に留まってしまい、交流して再考を促すような活動に発展させることはできなかった。自分の考えを伝えるだけではなく、交流の中から新しい考え方を再考することができるような学習活動の在り方を、今後考えていきたい。

3 本研究授業の授業技術課題について

発問の精選を行うために、本時の学習課題を前時と同じ文言で設定した。文言は同じだが、前時はどの筆者にも共通の工夫を見つけることがめあてだったのに対して、本時は一人一人違う工夫を見つけることがめあてであることを強調して提示した。その結果、児童は学習課題を意識し、明確に見通しを持って本時の学習に取り組むことができた。しかし、「どんな工夫をしているのだろう」という発問が抽象的だったため、理由の部分と関連付けて考えることが難しい児童も見られた。理由の部分に焦点化して発問するなど、より具体的に発問を行った方が効果的であったと考える。また、二つ目の投書で工夫を見つけられず、時間がかかってしまった児童がいたことから、簡単に見つけられる工夫からワークシートに記入してよいことを伝えるなどの配慮も必要であった。

4 次回の研究授業へ向けて

以上の点をふまえ、次回の授業研究では以下の点を意識した授業展開を考えたい。

- ・ 本時のめあてに迫るための指示や発問の工夫。
- ・ 自分の考えを分かりやすく表現し、交流させることで再考を促すような授業展開の工夫。

【資料1 段落ごとに分けたワークシート】